

いわみの

(益高だより)

第126号

平成30年3月23日
島根県立益田高等学校

「人間としての総合力」

校長 真玉保浩

平成29年度が終わろうとしています。卒業した3年生は本当によく頑張ってくれました。益高生としての自覚と誇りを持ち、自立への道程を歩む姿を、身をもって示してくれたと思っています。1, 2年生の皆さんはこの1年間を振り返ってみてどうだったでしょうか。

今回は、数学者でお茶の水女子大学名誉教授、藤原正彦先生による1999年に島根県行われた講演『論理と情緒』を聴いて、今も私の心に残っていることを述べます。藤原正彦先生は、数論を専門とする著名な数学者です。また新田次郎、藤原ていという作家を両親に持ち、「国家の品格」「若き数学者のアメリカ」などの著作で知られる現代を代表する名エッセイストでもあります。

講演は数学者として独創的な仕事を成し遂げるためには何が大切かという内容でした。豊かな知識と明晰な頭脳を持ち、論理的に考える力や創造する力が必要と単純に考えがちですが、実はそれらは必要条件にすぎず、他にも様々な資質や能力が要るとのことでした。3点に絞って述べます。

まず1つ目に必要なのは、自分だけの力でやり遂げてみせるという自信と野心。どんなにまじめに勉強しても野心がなかったら何も生み出せない。野心はけなす言葉でなく、褒め言葉であり、数学を発展させようとか、分からないことを解明しようなど、何かを成し遂げようという意欲のこと。

2つ目は、最後まで諦めずに努力を続けていく体力と気力。創造力、独創性を生み出したり、未知の問題に挑んだりするときの執着心を支える体力と気力が欠かせないと言います。数学ならば証明、理科ならば実験や観察データによる裏付け、経営やビジネスならば市場調査や景気動向などの統計データの裏付けなどを収集したり、使いこなしたりする地道な訓練が要るとのことです。

3つ目は、美しいものに素直に感動できる情緒つまり美的感受性だそうです。先生が影響を受けた数学者の岡潔先生は、「野に咲く一輪のすみれを美しいと思う心が数学だ」と教えていたそうです。高い山の頂にある花を採りに行くには、知識と努力も必要だが、その美しさに感動しなければ、野心も執着心も生まれません。未知の山には、道はない、論理は通用しない。そこから先、右に行くか左に行くかは、美しい領域がどちらにあるかという感覚である、と話されました。美的感受性は美しいものに囲まれて育ったかどうか、環境・家庭・教育によって培われるもので、日本は美しい自然に囲まれているので、自然科学の分野でも卓越した業績を挙げることができたということです。

もちろん誰もが仕事や研究での成功だけをめざしている訳ではないでしょうが、時にはリーダーとして、時にはフォロワーとして、学校や社会の中で何らかの役割を担いながらしなやかに生き抜いていかねばなりません。自分の目的を成し遂げる、あるいは幸せに自分の人生を送るためには、自分の個性や専門性を伸ばすだけでなく、人間としての総合力を高めることが大切です。益高での生活では、野心と執着心を持って文武両道にしっかり取り組み、卒業後もさらなる積み上げができるよう目の前のことに真摯に取り組んでいってください。よく学び、よく遊び、健康第一ですよ。



■君たちの明日へ

「正解のない問題」

教務部長 安達宗男

①If it (be) rainy tomorrow, we will stay home. 【1語の適切な形に直せ】

②If it is rainy tomorrow, we will _____. 【2語以上の適語を入れよ】

①の正解は1つですが、②には絶対的な正解がなく、複数の正解があります。社会に出ればこういう「正解のない問題」に取り組むことが必ず求められますが、その際に大切なのは「考えること」と「いろいろ試してみること」だと思います。では、「効果的な家庭学習とは？」の正解は何でしょうか。みなさんがそれぞれの「正解」にたどり着けるように、一緒に取り組んでいきましょう。

「Challenge なしに前進はない」

生徒部長 池野聡祐

「チャレンジなしに前進はない」元サッカー日本代表監督、オシムの言葉です。当たり前のことだよねと思うかもしれませんが、この言葉は私の心に響きました。みなさんは普段の生活の中で「チャレンジ」していますか？もちろん無謀なチャレンジは避けるべきだと思いますし、リスクが伴うので勇気がいることだと思います。「成功から学ぶことはほとんどなく、人は失敗から学ぶ」という言葉もあります。失敗をするためにはチャレンジが必要ですし、それが「自立への道程」に繋がると信じています。

「Believe in Yourself」

進路指導部長 長谷川 哲明

先日、卒業生が合格体験報告会で様々なことを語ってくれました。皆さんの感想にも「やる気が出た」「積み重ねが大事だと思った」「かっこよかった」などいろいろありました。皆さんの目に彼らが「かっこよく見えた」のは大学に受かったからではなく自分の進路にしっかりと正面から向き合ったからだだと思います。成功するかどうかはやってみないと分かりませんが、後悔しないために自分を信じ行動を起こしましょう。始業式で先輩として成長した皆さんに会えることを期待します。

転任者より

(50音順)



阿部 一人 先生 (英語)

益田高校では4年間お世話になりました。様々な場面で伝統を感じ、先輩方の思いを在校生の皆さんがしっかりと受け継いで作り上げられている学校だと感じる事が多くありました。高校生活の中でしっかりと学び、様々な経験を「自ら」して行ってほしいと思います。応援しています😊

牛尾 美春 先生 (国語)

生徒の皆さんのことばと笑顔に元気をもらいながら過ごした1年間は、あっという間に過ぎてしまいました。この1年間、益田高校で皆さんと過ごせたことを、今、心からよかったと思っています。ありがとうございました。

久保田 三鈴 先生 (実習教諭)

明るく素直な皆さんに囲まれ、気が付くと10年も経っていました。

益高生みんなが持っているその「素直な心」でいろいろなことに挑戦し、たくさんものを吸収してください。これからもずっと益高生を応援しています。

近藤 政克 さん (事務)

益田高校での3年間の勤務の中で、生徒の成長していく姿を間近で感じる事ができ、とても幸せな時間を過ごさせて頂きました。自分自身も少しは成長できた？と思いたいです。さて、この度の人事異動で西部県民センター益田事務所へ異動することとなりましたが、益高生及び先生方のますますの活躍をご記念し退任のご挨拶とさせて頂きます。3年間たいへんありがとうございました。

高橋 賢一 先生 (化学)

益田高校では主に三年生と関りを持ってきました。どの年度の三年生もみな実直で、こちらに「何とか支えになってあげたい」と思わせてくれる、そういう先輩たちでした。今の一・二年生も、そういう三年生になって益田高校を盛り上げてほしいと思います。益高生の輝きを期待しています。

古川 吉信 先生 (数学)

『職場や教室があるいは休息のスペースが、厚い思いやりをもって整えられていると、ひとは、わたしは社会に(あるいは学校に)こんなに大事にされているのだと感ずることが出来る。』
(鷲田清一) 益田高校で過ごした9年間、どれだけ大事にされてきたことでしょうか。益田高校のみなさん、ありがとう。

真玉 保浩 校長先生

益田高校に勤めることができ本当に幸せでした。今はただただ感謝するだけです。益高生としての自覚と誇りを持ち、さわやかで明るいあいさつ、身だしなみ、時間を守る、校舎をきれいに大切に使う伝統にさらに磨きをかけていってください。いつでも皆さんを応援しています。

松原 大悟 先生 (化学)

3年間という短い間でしたが、益田高校で過ごした3年間は、私の教員生活の大きな基盤となることを確信しました。伝統あるこの益田高校で勤務できたことを誇りに感じています。「挑戦し続ける強い心」をもって今後の人生を歩んでほしいと思います。遠いところですが、応援しています。

水上 恭司 先生 (英語)

36年間の教員生活が終わります。浜田商業、大田、益田、吉賀、浜田、そして再度益田です。高校3年間という時期に教員として生徒たちに関わったこと、そして、最後を母校で終われることを心から感謝します。ありがとうございました。
追伸 4月から再任用教員として再び益田高校でお世話になります。(笑)

山根 幸久 先生 (英語)

益田高校の雰囲気が気に入って勤務していたらいつの間にか8年が過ぎ、異動となりました。しかし、益田市の生活環境は素晴らしく、引き続き居住します。益田高校や益田市といった貴重な財産を守るために、生徒の皆さん一人一人が活躍してくれることを期待します。



■益田市グローバルリーダー養成事業 タイ王国研修

平成29年度益田市グローバルリーダー養成事業で今回益田翔陽高校、明誠高校、益田高校の2年生計11名が2月5日～10日の日程でタイ王国での研修を行いました。本校からは1組の青木拓巳君、福井和哉君、矢野皓太郎君、3組の田村梨花さん、5組の大庭和さん、齋藤千寿さん、田中珠世さんの7名が参加しました。この事業は益田市の将来を担うリーダー的人材として3つのことを目的として研鑽を積む機会として提供されたものです。多くの1年生が来年度このチャンスを活かせることを期待しています。以下は参加生徒の報告用レポートから抜粋したものです。



『言葉』で伝えるということ

2年1組 青木 拓巳

コンケン大学では、生徒たちとたくさん話しました。英語で話す機会がめったにないので、なんとか下手でもいいから相手に伝わるように努めました。そうして伝わった時の喜びは素晴らしいものでした。とにかく楽しい時間を過ごしました。医学部では全て英語で説明を受けました。聞き取れずに何を言っているのかわからない時もありました。自分の英語力のなさに絶望しそうになりました。これから英語の勉強により一層懸命に取り組みたいと思います。僕は人と繋がるためには、言語という道具が必要だということを3月3日の発表では中学生に伝えたいと考えています。タイの人たちとコミュニケーションを取る時にも、ジェスチャーだけでは伝わらない部分はやはり言葉で伝えなければなりません。言葉というものの重要性を後輩に知ってもらって、これから勉強に励んでもらえたらと思います。

「私が学んだ事」

2年3組 田村 梨花

私はハッキリ伝えることの大切さを知ることができました。これはタイだけでなくほかの国でもだと思いますが、曖昧な表現や誤魔化しは嫌われます。わからないことはわからない。相槌だけではなく、どう思ったかをきちんと伝えることはすごく大切だと思いました。そして、益田市に活かそうなことです。が、「体験型美術館」のようなものを作ってみてはどうかと思いました。バンコク国立博物館は建物自体が美術館という感じで、見学して回るのがとても楽しかったです。数多くの貴重な体験をさせていただきありがとうございました。これからの自分に生かせるように勉強をもっとして、地域のために働ける人になりたいと思いを直すことができました。

「広い世界を知る」

2年5組 齋藤 千寿

私は英語を自分なりに努力して勉強してきましたが、今までそれを生かす機会はほとんど試験だけでした。自分の努力に対して無意味さえ感じたこともありましたが、タイの友だちと話すことができて、心から嬉しく思えました。またタイの特徴的な文化である上座部仏教の習慣を日本と比べて色々感じることができました。これも学校で学んでいる世界史の知識をテストだけでなく、自分の経験の上で役立てることができ、訪問した様々な寺院を楽しむのに利用できたからだと思います。私は知識や経験は自分の大きな武器になると思っています。どんな仕事に就いても、その仕事の分野の中だけではなく、広い範囲の観点から見ることで新しい発想に繋がるからです。

タイ研修旅行レポート

コーディネーター 後川慶一

「はじめての海外/はじめての経験」



2/5～10に、益田市の事業の一環で、益田高校、翔陽高校、明誠高校の生徒11名が、タイに研修旅行に行きました。主な訪問先は北東部にある「コンケン大学とその付属高校」、バンコクにある「シマネ益田電子」「国立博物館と各寺院」でした。ほとんどの生徒にとって初海外だった今回の研修は、実り多い旅になったようでした。

コンケン大学付属高校では、日本の生徒が「益田市の魅力と課題」「日本の農業の現状」「課題研究発表」について英語でプレゼン発表した後、タイの生徒から持続可能エネルギーなどについての課題研究発表がありました。その後、質疑応答を経て、タイの生徒との昼食、校内案内と続き、生徒たちは現地の生徒との交流を深めていました。

コンケン大学では医学部と農学部に分かれ、それぞれの学部の見学をしました。また、教育学部では、日本語を学んでいる現地大学生と交流を行い、日本に興味ある学生から多くの質問を受けていました。日本人が少ない街ということもあり、大学でも高校でも生徒たちは熱烈的な歓迎を受けました。今は、日本もタイも、同じアニメやマンガ、SNSを楽しんでいるので、生徒たちは現地の生徒とすぐに打ち解け、仲良くなっていました。



「伝えようとする姿勢が大事」

コンケン付属高校での両校のプレゼン発表は、今回の旅のメイン行事でした。渡航前に生徒たちは英語でのプレゼン発表を準備し、四苦八苦しながらもなんとか出発日までに形にしていました。ただ、本番で、どれどほ相手方にきちんと伝えたいことが伝わったかという疑問で、その点は課題として残りました。タイの生徒の英語力は高く、向こうが発表した課題研究の内容も、世界大会レベルでした。英語でのプレゼン発表は、時間の都合もあり、「質疑応答は日本語でも OK」ということになりました。英語で頑張っしてほしいと思っていた私としては残念でしたが、仕方ありません。ただ、その流れの中でも、すべての質問を英語で返していた生徒がいて、素晴らしいなと思いました。海外では英語の上手い下手ではなく、伝えようとする姿勢こそが評価されます。来年参加する新2年生は、全員が、彼女のような姿勢を持って、研修に参加して欲しいなと思います。



「彩-iRodoRi プロジェクト」

コーディネーター 後川慶一

「『イロドリプロジェクト』とは？」

イロドリプロジェクトは、日本の伝統色をテーマにしたプロジェクトで、「昔、日本にあった繊細な色彩感覚を取り戻そう」という目的のもと始まり、現在は、伝統色を使ったカードゲームを作り、世界の高校生に配ることで、日本の色彩感覚を世界に広めるというプロジェクトです。1年生有志を中心に活動している「自主ゼミ」内の活動です。



「やっていくうちに方向は変わっていく」

最初は、日本の伝統の色について調べ、その繊細な色が山陰の自然の中にどのくらい残っているのか、実際に山の中に入って調べました。そして、その伝統色に残る日本文化や細やかなセンスを日本人が失わないためにも、色を使ったカードゲームを作ろうと考えました。

もともと、地元の子ども向けにカードゲームを作る予定でしたが、じょじょに広めるべき相手は、世界の人々なんじゃないのかと考え始め、facebookを開設し、英語で記事を書くようになりました。海外の人向けに日本の伝統色を広めなければならないので、カードの説明も、外国人にわかりやすいよう工夫しました。海外のデザイナーに作ってもらったカードゲームは、現在、数か国に発送し、これから更に多くの国に広めていく予定です。タイ研修でも、現地の生徒に遊んでもらいました！



「『イロドリ・プロジェクト』全国大会へ！」

2/18(日)に、プロジェクトを発表する大会(関西大会)があり、大阪へ行ってきました。関西地区の高校生が様々なジャンルのプロジェクトを発表する中、益高チームも予選、決勝で堂々と発表し、参加50チーム中、上位5チームに選ばれ、全国大会に進むことになりました。

プロジェクトはもともと優劣を競うためのものではないので、評価は一つの見方ではありませんが、これまでやってきた活動における行動力や発想力、探求性を評価してもらった形になりました。次は、全国大会に向けて準備を進めたいと思います。



平成30年度4月主な行事

- 4月 9日(月) 始業式 課題テスト
- 4月10日(火) 入学式 入寮式
- 4月18日(水) 遠足
- 4月19日(木) 前期生徒会立会演説会・選挙
- 4月20日(金) 第1回
- 4月23日(月) 第1回単位追認試験
～25日(水)
- 4月28日(土) 3年進研記述模試(希望者)



益田高校ホームページ www.masuda.ed.jp/

益田高校フェイスブック

<https://www.facebook.com/masuda.hs/>